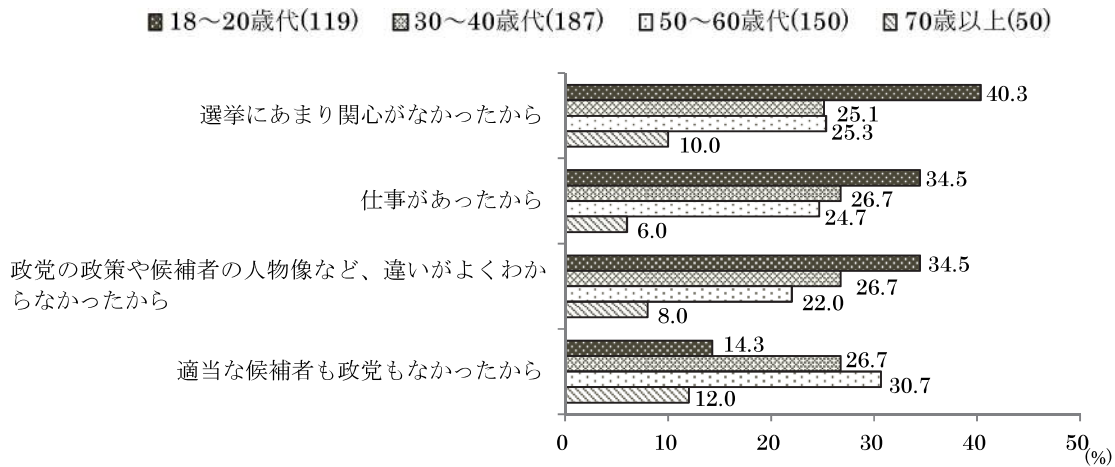
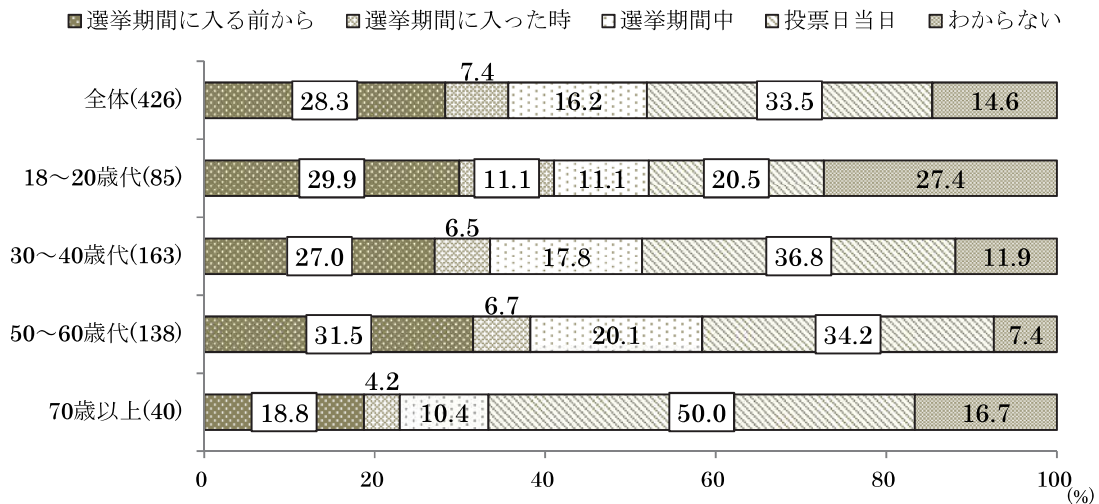


図 3-1 年代別棄権理由



最後に棄権することを決めた時期について年代別に見てみる(図3-2)。18~20歳代、30~40歳代は、約30%の人が「選挙期間に入る前から」投票しないと決めており、70歳以上の18.8%より約10ポイント高い。「選挙期間に入った時」は18~20歳代の11.1%が高く、30~40歳代、50~60歳代、70歳以上は10%に満たない。「選挙期間中」は18~20歳代から50~60歳代まで年代が上がるごとに選択率は増加している。「投票日当日」は70歳以上が50.0%と最も選択率が高く、18~20歳代が20.5%と最も低い。前回は20~30歳代及び40~50歳代がともに35.6%、60歳以上が29.8%であった。

図 3-2 棄権を決めた時期



18歳選挙に関する意識調査(H28.12) 【抜粋】

【高校時に受けた選挙・政治に関する授業の内容】

＜上位3項目＞ ※複数回答

- ①選挙の仕組みや投票方法を学ぶ授業 25.9%
- ②「私たちが拓く日本の未来」(副教材)を使用した授業 17.2%
- ③選挙や政治に関する新聞記事を使った授業 9.2%

(どれも受けたことはない 39.1%)

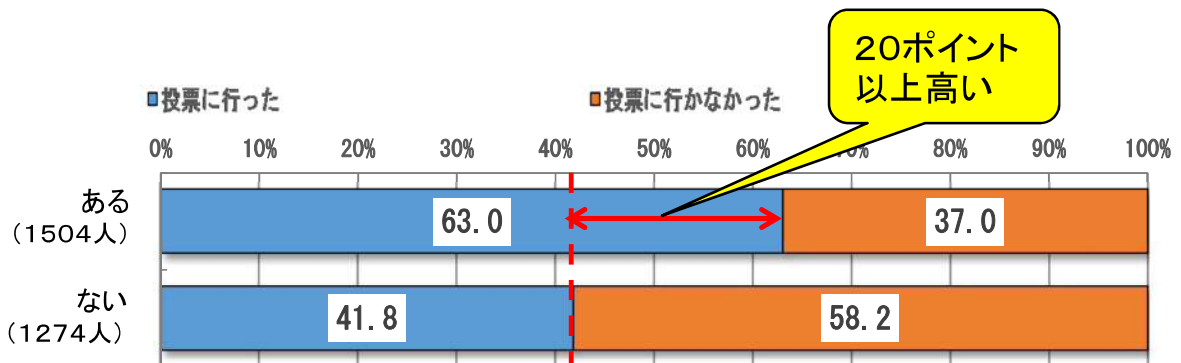
【年齢別】

- ・「私たちが拓く日本の未来」を使用した授業」と回答したのは、18歳が最も多い。
18歳(30.9%)>19歳(16.8%)>20歳(4.0%)
- ・「選挙の仕組みや投票方法を学ぶ授業」と回答したのは、18歳が最も多い。
18歳(28.8%)>19歳(26.6%)>20歳(22.2%)
- ・「どれも受けたことはない」と回答したのは、20歳が最も多い。
20歳(50.0%)>19歳(38.3%)>18歳(28.9%)

※「高校」には高等専門学校などを含む。

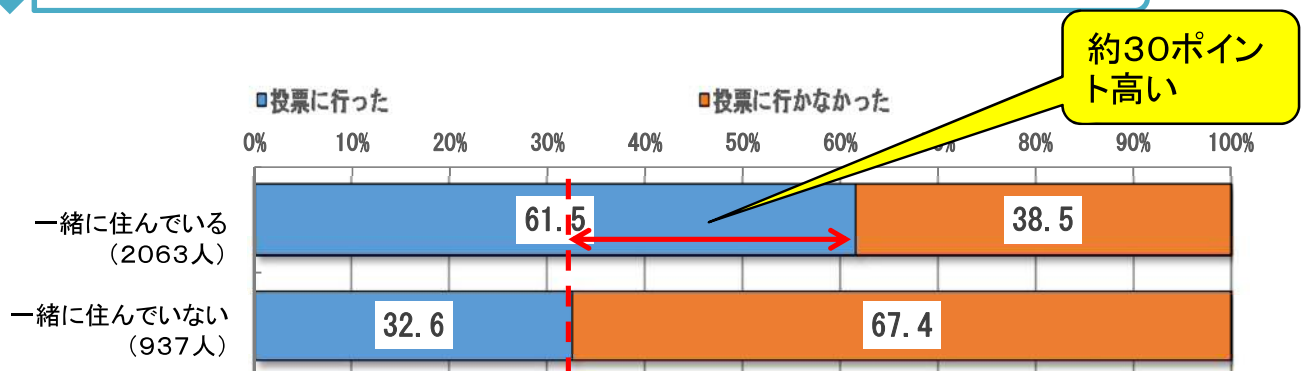
子どもの頃に親が行く投票について行った人の投票

- ・子どもの頃に親が行く投票について行ったことが「ある」人の方が、投票した割合が20ポイント以上高い



親と一緒に住んでいる人・住んでいない人の投票

- ・親と「一緒に住んでいる」人の方が、投票した割合が約30ポイント高い



(総務省HPより抜粋)